

第10回山口市中心市街地活性化協議会報告（要約）

1. 日 時 平成20年5月28日(水) 19:15～20:30
2. 場 所 山口商工会議所5階コミュニティホール
3. 出席者 計28名
4. 内 容

【協議事項】

1. 認定基本計画の変更について

(1) アルビ跡地事業計画

山口市から説明

中心市街地活性化基本計画には、中心市街地の西側の計画として、アルビ跡地・山口銀行山口支店跡地を活用したアルビ再生事業をより効果的に行い、にぎわいを創出するということから、平成19年度に財団法人地域総合整備財団の地域再生マネージャー事業を活用して、まちづくりの専門家による西の核のグランドデザインをお願いしている。グランドデザインの協議で、各商店街、山口商工会議所、(株)街づくり山口など関係者との話し合いから、山口川端市場の移転先にアルビ跡地に市場を核としたテナントミックス施設で建設する方向が示されている。建物のデザイン、補助金の活用など詳細については、これから調整。建物については、中市商店会振興組合が取得して、運営を(株)街づくり山口が行う方向で検討中である。詳細が決まり次第、基本計画の変更を行いたい。
～異議無く承認～

(2) (仮称)やまぐち秋のフェスティバル

山口市から説明

山口井筒屋が、10月にオープンすることを契機に、中心市街地が一体となって、魅力ある商業空間を創造し、それを来街者が体感できるようなイベントを新たに実施し、まちのイメージアップに向けて、新たな魅力と賑わいを創出する事業を行うことを基本計画に新たに記載したいという変更。

～異議無く承認～

2. 平成19年度収支決算について

事務局より別添資料に基づき決算報告について説明。その後、藤井監事から監査報告を行う。

～異議無く承認～

3. 専門部会から提案された事項の今後の取り組みについて

専門部会委員会活動について事務局から説明

第1 専門部会～テーマとして「山口市民に対して中心市街地活性化基本計画の理解を得る広報活動づくり」に取り組み、クイズ方式で理解を深める提案が出ている。

第2 専門部会～「街なか居住促進を図る」ことに取り組み、①エリア内の空き店舗調査(NPO山口まちづくりセンター)②高齢者の街なか居住支援のモデル調査(NPO荒高)③先進地視察(京都市、八女市)を提案。

第3 専門部会～「魅力ある商店街モールを創造するための各商店街の連携強化」として、①駐車場料金体系連携(同じ料金体系とバリアフリー駐車場有無のサイン整備)②商店街人材バンク(ボランティア学生、商店街ファンクラブづくり)③荷物サービスのためのカートの設置。

第4 専門部会～「JR山口駅周辺の活性化」①山口駅と新山口駅の運行便数の増加②駅前レイアウトを山口市全体の交通体系から進める③駅周辺の遊休地を活性化に機能を取り入れた、土地一括売却。④駅舎2階にある観光案内所を1階へ、また、駅舎以外へ⑤山口駅に山口相応しい駅舎(モニュメントの設置)

【報告事項】

1. 中心市街地活性化基本計画事業の進捗状況について

市から説明

- ・2月の基本計画の活性化の成果指数が必要。市が作成したスキームでは、通行量は平成18年度54,252人から平成19年度46,750人であるが、平成23年度の目標として56,000人としている。どうもんパークが整備中であること。19年度の調査時、阿知須できらら物産交流フェア、維新公園でものづくりフェスタが開催された。

居住人口は、平成18年度3,968人、平成19年度3,945人の▲23人。平成23年度目標で4,200人。この目標を達成する対策として、借り上げ住宅、市営住宅整備の着工、中心市街地への居住人口を促進する事業の検討を行う。

以上